

白藍塾オリジナル

2019入試小論文分析&解答のヒント

2019年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・看護医療学部

課題文は、自己の内的体験にもとづいた哲学的なエッセイのような文章で、読みやすいが、「なんだか観念的でよくわからない」という人も多いただろう。かといって、筆者に付き合って主観的な文章をつづっても何にもならないので、ある程度テーマを絞って考えるしかない。

問題1では、「病む者に元気になってと声をかけることが、いかに残酷であるか」という箇所の説明が求められている。ただし、それについて直接わかりやすい説明をしている部分は見当たらないので、ある程度自分で解釈を加える必要がある。

注目すべきは、下線部1)を含む段落から2つ後の段落の、「元気になることが、関係を結び直す条件だと聞こえる。その言葉は～」という箇所だろう。つまり、病者は病者特有の世界を現に生き、それと関係を結んでいるにもかかわらず、そうした世界との関係が否定されているように聞こえるわけだ。そうしたことを、字数に合わせて説明すればよい。

問題2では、「苦しむ者は、多く与える者である。支える者は、恩恵を受ける者である」という言葉の説明と、それについて自分の考えを述べることが求められている。これは、最初に言葉の説明をして、それについて問題提起をした上で、後は通常の4部構成と同じようにまとめればよいだろう。

問題の言葉は、たとえば「苦しむ人の、その苦しみに耐えて生きようとする姿そのものが、そばにいる人に、生きる意味について多くのことを教えてくれる」などのように解釈できる。その考えに対して問題提起をするわけだが、基本的にはイエスの方向で考えるほうが書きやすい。

ただし、哲学的に深めようとするとうまくつかなくなるし、そこまでは求められていない。健康な人は、病人や被災者に対して、しばしば上から目線になって、悪気なく傲慢な態度を取りがちだ。そのことは、医療者と患者の関係についても言えることだ。そうではなく、逆に病人や被災者を「与える者」とみなし、自分を様々なことを教えられ、気づきを得る立場に置くことで、お互いに対等な関係を結ぶことができるはずだ。そうした内容が書ければ、十分合格レベルになるだろう。

ノーで書く場合は、そうした考えが、場合によっては現実に存在する苦痛や困難を見落とすことにつながる危険があることを指摘するとよい。「病者や被災者の多くは苦しみや困難から逃れたい

と感じており、それを『恩恵』と受け取るのは健康な者の自己満足にすぎない」といった論じ方も可能なはずだ。一方的にならずにしっかりと書けていれば、この方向でも十分説得力のある内容になるだろう。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>